

令和2年度 第8回高島町新庁舎建設検討委員会 会議録

【日 時】 令和3年3月12日（金） 15時40分～16時30分

【場 所】 高島町総合交流プラザ 2階研修室

【出席者】（委員）宮原博通委員、白石信也委員、斎藤洋子委員、後藤昭委員、我妻里奈委員、
西方茂太委員、平崇委員、増田陽子委員、渋谷保委員
（町）企画財政課長、企画財政課長補佐、新庁舎建設推進室長、庁舎建設係長、
公共事業整備専門員
（株式会社久米設計東北支社）五十嵐副支社長、櫻井副支社長、田村主査

【会議録】

1. 開会 15時40分

司会（事務局）による開会

2. 委員長あいさつ

本日は会議前に久米設計から技術提案の概略を説明していただいた。私もプロポーザル審査会では審査委員を務めたので説明を聞くのは今日で2回目だが、省エネだとか防災拠点となり得ることについてなど、本当にこれからの時代にふさわしく、そして町民の方に愛されて活用される庁舎になるだろうと思っている。技術提案はそのあたりがきちんと捉えられていたのだと思っている。

施設が実際に完成して使われるのは4年先になるわけだが、開庁当初から町の政策を実現していく拠点として、これから始まる基本設計の段階で、私たちが高島町で暮らしていくうえでどのようにこの庁舎を活用していくのか、これからは町民の方もこの施設を活用していくという姿勢が重要ではないかと思う。

また、先ほどの資料の中でも建設コストの削減であるとか、新しい技術的なものを取り込んだ提案が多くなされているが、こういうことに関しても久米設計さんは探求心を持たれて技術革新を進めていくだろうと思っている。

今日も皆さんから忌憚のない意見をいただきたいと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

3. 報告事項

2月16日開催のプロポーザル最優秀者によるプレゼンテーション

15時より新庁舎建設庁内検討プロジェクトチームとの合同により、株式会社久米設計東北支社の技術提案プレゼンテーションを視聴

4. 議事

（1）新庁舎建設基本・実施設計業務公募型プロポーザルについて

（事務局）

高島町新庁舎建設基本・実施設計業務公募型プロポーザルについて、概要とこれまでの経過を説明

(委員長)

ただ今事務局より、基本・実施設計の公募型プロポーザルについて説明があった。このことについて委員の皆さんから質問あるか。

(全委員)

なし。

(2) 新庁舎に関する今後のスケジュールと令和3年度の検討委員会について

(事務局)

資料「新庁舎開庁までのロードマップ(改訂版)」及び資料「高島町新庁舎建設検討体制の変更について」を基に説明

(委員長)

ただ今の事務局からの説明について意見や質問があれば出してほしい。

(委員)

検討委員会と直接関係がないのかもしれないが、庁内検討体制についてプロジェクトチームが11名となっているが、ワーキンググループはどれくらいの人数を予定しているのか。

(事務局)

前段のプレゼンテーションの資料の裏面に庁内検討プロジェクトチームの名簿を添付させていただいた。この中で担当カテゴリーということで11のカテゴリーを設けて今年度検討を進めてきた。大別すれば、この11のカテゴリーの中で検討を進めていきたいと考えている。ワーキンググループはカテゴリーの枠の中にあるので、大きなカテゴリーの枠を維持したうえで詳細なことを検討していくスタイルになろうかと思われる。

(事務局)

新庁舎整備事業の令和2年度の最終目標が基本設計発注だったので、今回で一段落ついたことになる。基本計画策定の時も庁内検討プロジェクトチームからいろんな課題が出てきている。皆さんにも以前配付した朱書きの記載のある資料、例えば「窓口はどうする」とか、「休憩室の在り方は」とか、いろいろあったと思うが、あれはまだ誰も検討しておらず課題として上がってきているだけである。今度は基本設計を発注しているということで、久米設計の方からどうするかという問い合わせが必ず来ることになる。文書管理、書庫はどれぐらい準備するか等々、具体的にどんどん出てくるので、それを検討するチームとしてプロジェクトチームを細分化したとっていただきたい。

また、カテゴリーは11になるが、例えば「文書管理」と「システム」など相俟って検討しなければなくなるカテゴリーもある。その場合、プロジェクトメンバーがリーダーとなって、ワーキンググループのメンバーを選抜することにしたい。そのカテゴリーが得意な職員が庁舎内にいるので、そのような職員を集めてワーキンググループを作る。ワーキングの人数は多くなるところもあれば、2～3人でこなせるところも出てくる。その調整は事務局で行うことになる。

なお、ワーキンググループの検討した詳細な内容まで検討委員の皆さんにご報告することもないのかと考えている。ワーキングの進捗過程において、ある程度固まったものをお示しして、そこにご意見をもらう形になるのかと思う。そのうえで大きな区切りの部分では、久米設計にも同席していただく形になるか

もしれないが、そのように進めていきたいと考えている。

令和3年度の検討委員会は、2年度よりも開催回数に限られてくる。そのため、本日提示したこの技術提案概要についてでもけっこうだし、気になるところあれば事務局にお伝えいただきたい。例えば「障がい者用の駐車場はどうなるか」などは、この図面からは読み取れない。南側の窓際に庇が出ていてそこに直付けで障がい者用駐車場を作るという構想がここには書いてあるのだが、この図面からはなかなか読み取れない。あくまで一例だが、そのような疑問なことがあればメールでもかまわないので事務局までどんどん意見を寄せてほしい。

(委員長)

検討委員会で委員の方からいろいろ意見をいただくことができるのは令和3年度の基本設計までとなる。令和4年度の実施設計になるとそれができなくなる。

(事務局)

実施設計段階に入ってから意見の反映は難しい。基本設計での積み上げがあるので、実施設計では建材の決定とか最終的にはそういうものになってくる。壁紙をどうするかとか、木を使うかボードにするかとか、そういう内容になってくる。

レイアウトなどは基本設計で検討していくことになるが、今日提示した技術提案書が大きく変わることはないと思う。二階建てのL型の構造、ゾーニング分けがきちんとできていることをプロポーザル審査委員は評価しているので、多少の変更はあると思うが大きくは変わらないと思う。

(委員長)

この技術提案書だけでは不明な点もあると思うので、「ここはどうなんだろう」と確認されたいことがあれば、皆さんからもお問い合わせいただきたい。

(事務局)

これまで検討委員会では3階建ての長方形を想定して検討を進めてきたが、久米設計の技術提案は、建設用地も十分に確保でき外構にも影響ないという提案だったということと、駐車場の取り方だったり、堆雪場の考え方だったり、災害時の使い方だったり、きちんとゾーニングができていたので、その辺の評価が高かった。

(委員長)

オペレーションも2階建ての方がしやすい。

(事務局)

低層の設計は共用スペースが少なくて済むとのことである。階段とか踊り場とか、そういったところが必ず必要になってくるので、その分の面積を会議室などに活用できるという提案だった。

(委員長)

技術提案書の南正面外観イメージ、このパースをみても周辺の外観に溶け込んでいるいい雰囲気である。

(事務局)

プロポーザル技術提案では、4階建てが1者、3階建てが3者、2階建てが1者だった。

(委員)

さっきプレゼンの中で、「どまホール」を貸し出すようなテーマがあった。様々なものに使う説明があったが、行政としても貸し出すことを想定しているか。公民館のように民間団体がこういう所で活動できるのは、素晴らしいことだと思った。

(事務局)

以前紹介された南三陸町庁舎も久米設計が設計をしており、あちらでは「マチドマホール」と呼ばれている。

(久米設計)

南三陸町庁舎は明確に区切られてないエントランスホールを兼ねているが、今回高島町の場合は多目的ホールという要望があったので、エントランスホールとは別にしつらえた。

あとは公民館機能と庁舎機能を併設するということから、前段話したようにセキュリティラインの考え方について、シャッターにするのかガラスのスクリーンでやるのかいろんな議論があると思うが、そこで区切ることによって、休日や夕方5時以降に公民館機能として単独で使えるようなしつらえを提案させていただいた。具体的な運用面はこれから町において検討されると思うが、セキュリティラインで区切って使っていただける提案とご理解いただきたい。

南三陸町の庁舎のホールはパーテーションで区切れるようになっていて、コンサートなどは難しいが、絵画や生け花の展示などで日常的に使われている。マチドマホールは、イベント時など、アコーディオンタイプのアルミサッシを開放して外部と一体利用できるというような提案だった。公民館機能が併設されていなく役所のエントランスホールという位置づけなので、ホールを全面開放してのイベントもまだ実現していないが、長期的に新しい庁舎は30年～50年使われるものであり、住民自治ということも町の方で意識されていたので、そういうこれからの可能性を含んで提案したものである。

(事務局)

シビックゾーンという提案があったが、あれもいい考えだと思う。文教施設、町立図書館や文化ホールと新庁舎の公民館機能がつながることになる。

(委員)

以前いただいた南三陸町庁舎の資料では、切子のモチーフが配されていたが、これも久米設計の提案だったのか。

(久米設計)

当社の提案である。専門のデザイナーがいたので、町の実情を得てそういう方とコラボレーションして実施した。

(委員)

マチドマホールは開放感があってすごく良いと思った。

(久米設計)

南三陸町庁舎は3階建てだが、3階建てなのは一部であって、60～70メートルは平屋になっていて、自然採光を上から取り入れた庁舎づくりになっている。南三陸町長が南三陸産の杉を使って林業振興に寄与してほしいということであったので、そういうタイミングもあって実現した計画である。

当然ながら町の理解がなければそこまで木材を使うのは困難である。準備もあるし、町の要望と理解があって実現した。

(委員)

南三陸町の庁舎は実際に南三陸町産の杉を使って作られたということか。

(久米設計)

町産木材を構造材に使っているので、かなり数量が必要だった。着工前から町の森林組合と打合せをして伐採と乾燥を先行して行った。

(委員)

技術提案にある防災広場は芝生になるのか。

(久米設計)

これから皆さんからご意見をいただいて設計を進めることになるが、雪の問題もあるので芝生がふさわしいのか、もしくはインターロッキングがいいのか、あるいはそのまま地場産材を使って舗装がいいのかなどは、これから協議していきたいと思っている。ただ、図書館前の広場が芝生だったので、やはり冬季の利用方法を考えると植栽をたくさんするというよりは芝生や舗装でやった方がいいのかなという考えである。

(委員長)

冬場の除雪のことを考えると、シンプルなのが良いと思う。

(事務局)

町立図書館の広場も最初は全部芝生の計画だった。しかし除雪できなくなるし、当然屋根からの落雪もあるので、芝生のスペースを最小限に絞った。野外ステージもできるので、芝生の広場がいいだろうという話にもなったのだが、全面的に芝生にすると除雪ができなくなるので、周りだけホイールローダーが通れるスペースを残した。維持管理が一番の問題である。新庁舎の防災広場は芝生にはならないと思う。雪が押せなくなる。費用の面がクリアできればアスファルトよりも熱を持たない素材がいいと思う。

技術提案書のテーマ1に防災拠点の平面図があるが、新庁舎の外構を整備するとだいたい周辺エリアの大きな建物整備はほとんど終了する。後は更新が主になってくるが町営体育館が一番古い。

老人福祉センターも老朽化が進んでいる。昔は入浴施設も管理して、高齢者の憩いの広場に使っていたのだが、今はその機能もないのでだいぶスペースが余っている。倉庫も公用車の車庫も必要に迫られて空きスペースにどんどん建てているので、老人福祉センターの建替えの時に全体的に整理しようと考えている。

また、新庁舎周辺には、水道管理施設、福祉施設が二つ、あとは古い木造の倉庫、水道の管理施設などがある。水道の管理施設は無人であり、現在は水道の管理はパソコンでやっている。集中管理は卓上でできる。福祉施設も福祉センターの空いているところまでできる。

今回の技術提案ではエネルギー棟が新庁舎といっしょになっている。尾花沢市庁舎を視察してきたが、あのように別棟にした方が良いのではないかと考えている。どういうふうに配置すれば一番よいのかというのはこれから検討していきたい。

(委員)

屋上に太陽光パネルを設置するとしているが、それだけで ZEB Ready を達成できるのか。

(久米設計)

ZEB Ready については、太陽光パネルによる創電や、それ以外にも空調機の出力の最適化や断熱性能を高めるとか、そういったものを総合的に検討して提案することになると思う。

太陽光パネルをたくさん設置するとその分創電できるので、それだけ ZEB 上は有利になるが、それだけよりも空調機能出力の最適化や断熱性能を高度化、あとはダブルスキングラスの採用など、総合的に取り入れて ZEB Ready を目指したいと考えている。

(委員)

蓄電の発想はないのか。

(久米設計)

蓄電もちろん太陽光とセットで検討していくことになる。

(事務局)

今回の技術提案書ではテーマ4の部分となる。エネルギー関係。これをどこまでやるかだと思う。

(委員)

地下水や地熱、省エネや創エネ、蓄電などあるわけだが、当然全部費用がかかってくることなので、どの程度現実味があるのかと少し心配している。

(久米設計)

久米設計事務所全体でだと今まで ZEB 認証できているものに限っても3棟あり、そのうちの一つは Nearly ZEB の施設である。今回提案のスペックで Nearly ZEB は難しいと思うが、ZEB プランナーもいるしノウハウの蓄積もあるので、今後進めていく中で、そういったメニューの提案を説明させていただきたい。

今日配付した技術提案書だと、概要版2のテーマ4「図4-2 ZEB Ready 基準に適合するための各計画」とあり、この中でも熱負荷低減、省エネ、再エネ、創エネとあり、この考えを複合的に取り入れて ZEB Ready を実現するという考えである。

(委員長)

久米設計には ZEB に関する専門の技術セクションがあるのか。

(久米設計)

本社にはなるが ZEB プランナーがおり、ZEB を実現するという手法の経験があるので、追って本設計の中でメニューを提案していきたい。

(事務局)

プロジェクトチームの環境カテゴリ担当者は、Ready ではなく Nearly を目指すべきだといっている。Nearly は75%削減なので、相当いろんな設備の導入が必要となってくる。

(委員)

結果を追求すれば設備費がかなりかかると思う。建物自体は単純な平面プランだが、ZEB を進めれば設備関係がかなり複雑になるだろうと思っている。

(事務局)

ZEB を導入する時は国の補助金を活用できる。

(委員)

センサー技術などが入ってくるとかなり費用がかかる。本当に可能なのかと心配している。

(久米設計)

断熱性能を高めるとか、開口部をある程度限定するとか、あと、意外と大きいのは空調設備の最適化である。以前は安全率を見込んで設備計画をやるケースが多かったが、最近は技術的にも進歩しているので、ある程度部屋に見合った空調機の過度な部分をカットしていくと、ZEB の数値としては上がっていくということになる。その辺も含めて、どちらかと言えばお金がかかるというよりは厳しく精査していくという方になるので、総合的に考えて提案していきたいと考えている。

(委員)

低層の建物は、3階や4階の建物と比べれば、吹き抜ける空間も制限されると思うのだが、それにしても西側に行くほど太陽光などで全面のガラス張りなどかなり負荷が生じると思う。それを考えた時に大丈夫か心配している。

(久米設計)

実際にシミュレーションを重ね、特に西日対策については西側に極力開放部を作らず壁面として考えている。

ただ南側は、建物がL型のプランになっているので西日の負荷を軽減するためにも有効ではないかと考えている。

(委員長)

南側にしてもルーバーを考えていくなどの手法もある。

(委員長)

他に何か質問はあるか。

なければ今日のところはこれでよろしいか。

(全委員)

異議なし。

5. その他

6. 閉会 16時30分